

南山大学図書館報

## ΔΥΝΑΜΙΣ

No.20

1994.1.1

## 図 書 館 の 賜

杉 本 良 男

5月のインドは心底暑い。

その日も例のごとく猛暑のマドラス郊外の昼下がり、依頼した本のコピーがめずらしく約束の時間にできあがっておらず、急いでやりますから、というので、間口1間ほどの狭い店の中でほんやりと仕上がりを待っていた。そこへ一人の男性が緊張した顔で入ってきた。われわれを方々たずねあるいたらしい。夜行列車ではるばるマドラスまで本を捜しに来たのだという。その本はコピー機の上にあった。

1990年3月、1年間の留学の機会を与えられてようよう南インドへたどりついた。このとき荷物の安全と重量を勘案して重要な本は現地調達しようと考えたのが甘かった。マドラス大学図書館も公共図書館も整理が全くなされておらず、とてもまともにご利用できる状態ではなかった。カードは一応つくられているが、そこから現物を探しだすのは至難のわざである。猛暑のさなかの宝探しにもにた営為は悲惨の一語につきた。もはや偶然と僥倖にのみ賭けて、カードから現物を探す作業を放棄せざるをえなかった。そうすると案外重要な本に出会ったりするから世の中は皮肉である。

もちろん感心すべきことも多い。大学図書館は365日間1日の休みもなく毎朝8時から夜8時まで開館しているし、学生は図書館で静かにまた熱心に勉強している。整理と愛想は悪いが職員は親切で、ない本もむりやり見つけだしてくれる。件の本というのは、比較的整理のよい Department Library から借りだしたのだが、タミル社会研究の基本中の基本文献であ

る。著者はアメリカの人類学者であり、各地の図書館などに寄贈したようだが、実際現物を見つけたことはできなかったという。寄贈本はことごとどこかへ行方不明になってしまうらしい。

インドでは人は運命論者になる。訪ねて来た人は大学の歴史学科の教授で、奥さんも大学の教員、そして二人とも日本史を教えているという。われわれの調査の目的を聞いて、近々親戚の結婚式があるから、何月何日の夜行列車でやってこないかと招待をうけた。いわれるままに初めての町へと旅立ったが、列車はめずらしく1時間半遅れで着いた。約束通りホームで待っていてくれた姿を見てほっとしたものである。

タミルの結婚式は派手である。招待客は千人を超えていた。とくに女性側の負担が重く、女の子を3人もつと家がつぶれる、とどこかで聞いたような話も耳にした。式は足かけ3日にわたり、夜中にも断続的に儀礼がある。睡眠不足のまま山のような食事をごちそうになってさすがにへきえきした。とはいえ通訳から解説までしてもらって大いに収穫があがったものである。

このご夫婦にはタミル社会ゆえの長く苦しいロマンスがある。「スギ」とよばれる人形のように可愛いお嬢さんとともども、いまでも深い付き合いが続いている。

惨憺たる図書館がくれた賜である。

(Yoshio SUGIMOTO:人類学研究所助教授)

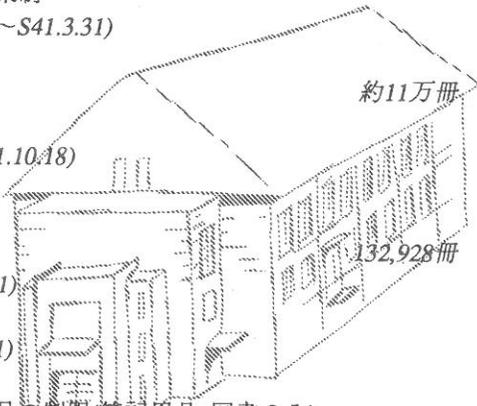
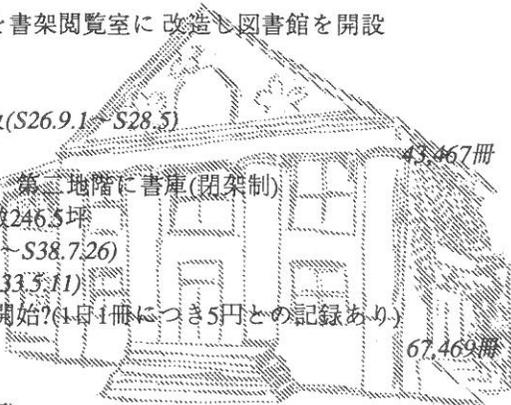




《図書館報20号記念特集》

南山大学図書館のあゆみ

年代	館長	主な出来事、図書館の利用	蔵書冊数
昭和 7. 1.21		南山中学校設置	171冊
昭和21. 7.13		南山外国語専門学校設置 旧南山小学校、中学校の焼け残りの校舎の美術室を改造して図書室にした	約6,000冊
昭和22. 8.15		名古屋外国語専門学校と改称 このころ図書充実運動が学生・教員によりおこる 陸軍幼年学校図書への払い下げを受ける(約15,000冊)	約30,000冊
昭和23.12. 3		図書館の開館式(pm.1:00~) 体育館(至誠堂)の半地階を書架閲覧室に改造し図書館を開設	
昭和24. 4.		南山大学創立	
	初代大沢 章氏 (S24.6.1~S25.10.14)		
	エウ・ア・M・ヘリ-女史図書館長事務取扱(S26.9.1~S28.5)		
昭和26. 9.14		● 移転 図書館落成祝別式 講堂の第一地階に閲覧室、第二地階に書庫(閉架制) 閲覧室の座席数200,総坪数246.5坪	43,467冊
昭和27	第2代テオドル・ウ・アンサーイル師 (S27.4.12~S38.7.26)		
	フェネネ師図書館長事務取扱(S28.4.11~S33.5.11)		
昭和29		● このころから延滞料制度開始?(1冊1冊につき5円との記録あり)	
昭和30		●	67,469冊
昭和35		● 延滞料 1日1冊10円(~現在)	
昭和36		● 返却と同時に即納しない場合延納料(1日1冊5円)加算 (~S46)	
昭和38	卜部 小十郎氏図書館長事務取扱(S38.7.26~S39.11.6)		
昭和39. 4.		● 南山大学 五軒家町から山里町へ移転 地上3階、地下2階、総坪数1,200坪 蔵書収容能力30万冊 全館開架制	
	11. 6. 宮内 璋氏図書館長事務取扱(S39.11.6~S41.3.31)		
昭和40		●	
昭和41	第3代 木村 太郎氏(S41.4.1~S45.3.31)		
	宮内 璋氏図書館長事務取扱(S41.7.6~S41.10.18)		
昭和45	第4代 大庭 征露氏(S45.4.1~46.3.31)		
昭和46	第5代 塩野谷 九十九氏(S46.4.1~S47.3.31)		
昭和47	第6代 村松 恒一郎氏(S47.4.1~S49.3.31)		
	中村 精氏図書館長補佐(S47.5.2~S49.3.31)		
昭和48		● このころから入館時の所持品の制限(筆記用具、図書のみ) ● 退館時の所持品チェック などをおこなう(~S60)	
昭和49	第7代 山田 隆 治氏(S49.4.1~S51.3.31)		
昭和50		● 開館延長開始	154,824冊



《図書館報20号記念特集》

昭和51 第8代 石黒 毅氏(S51.4.1~S56.6.11)

昭和52.11.17

集中豪雨による図書館全館冠水  
概算5万冊の蔵書が被害 (11/17~22 閉館)

昭和55. 2.12  
~4.30

増改築(図書館の書架等が蔵書量に比し限界にきたため)  
による休館

258,131冊

5.

増改築完了 延床面積8,430m<sup>2</sup>、座席数712席  
収蔵能力 約87万冊

従来の開架方式以外に書庫出納方式の併用

7. 7

落成式

昭和55年度年間入館者数約15万人

昭和56 第9代 宮川 茂夫氏(S56.6.12~S63.3.31)

昭和57. 4.

キリスト教コーナー開設

昭和58. 3.

「南山大学図書館紀要」創刊

昭和58. 4.

UTLAS(University of Toronto Library Automation System)導入

三宅文庫創設

昭和60. 4.

入館ゲート設置(学生証をカード入口に差し込む)

369,661冊

退館ブックレイトテクノロジー導入

図書管理システム稼働

昭和61. 4.

雑誌管理システム稼働

5

学術情報センターとオンライン接続、稼働

昭和63 第10代 山本 和義氏(S63.4.1~現在) デュナミス

4.

「南山大学図書館報(ΔΥΝΑΜΙΣ)」創刊

5.

オンライン情報検索システム(GEMMA)サービス開始

昭和63年度年間貸出冊数(学部学生分) 35,221冊

平成元. 4.

閲覧システム稼働

カーゲート(入館ゲートを押す)

468,871冊

平成元年度年間入館者数30万人を超える(36.3万人)

平成 2. 4.

学生の書庫入庫制度開始

499,639冊

平成 3.

アソビッパ展(~11.9)

521,062冊

10.28

平成 4.

夜間開館(8:00まで)実施

529,985冊

5.11

地蔵写真展(~11.7)

10.26

キリスト教関係資料展(~11.7)

10.31

平成4年度年間入館者数40万人を超える(41.6万人)

平成4年度年間貸出冊数(学部学生分) 71,997冊

平成 5. 4.

南山大学図書館「がら」文庫創設

574,013冊

平成 5.10.1

東南アジアの子どもたち展(~16)

平成 5.11.1

歌舞伎の歴史展(~13)

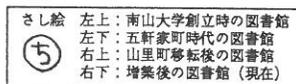
現在

587,095冊

(11/30現在)

平成 7. 4.

新システム稼働予定



〈図書館報20号記念〉南山大学図書館報 Δ T N A M I Σ 総目次(No.1~20)

巻頭言

新入生の皆さんへ(山本和義) [No. 1(1988. 4) p. 1]  
 まず一冊を(山本和義) [No. 2(1989. 4) p. 1]  
 図書館と私(加藤泰史) [No. 3(1989.10) p. 1]  
 古書礼讃(竹村文彦) [No. 4(1990. 1) p. 1]  
 衛星放送時代の図書館(家本博一) [No. 5(1990. 4) p. 1]  
 書庫の沈黙(高橋広次) [No. 6(1990. 7) p. 1]  
 "図書館"から"学術情報センター"へ(高橋弘一) [No. 7(1990.10) p. 1]  
 本の<読み方>と<使い方>(廣田照幸) [No.8(1991.1) p. 1]  
 読書について(岩見恒典) [No. 9(1991. 4) p. 1]  
 図書館との付き合い方、今と昔(阿部泰明) [No.10(1991. 7) p. 1]  
 FOOD FOR THOUGHT (Michael Calmano) [No.11(1991.10) p. 1]  
 Tolle,Lege [取って読みなさい] (渡邊頼純) [No.12(1992. 1) p.1]  
 人間らしく人間であるために(岡崎才藏) [No. 13(1992. 4) p. 1]  
 漫画の話(近藤祐一) [No.14(1992. 7) p. 1]  
 図書館は遠い?(鈴木敦夫) [No.15(1992.10) p. 1]  
 よく聞くこと(中矢俊博) [No.16(1993. 1) p.1]  
 神谷美恵子-その人と著作-(芝修身) [No.17(1993.4) p.1]  
 読書の秘密とブライヴナー(栗本雅和) [No.18(1993. 7) p.1]  
 歌舞伎偶感(内藤克彦) [No.19(1993.10) p.1]  
 図書館の賜(杉本良男) [No.20(1994. 1) p. 1]

特別寄稿

人生の意味を見出す読書(都筑淳) [No. 6(1990. 7) p. 2]  
 歌舞伎を楽しもう(安田文吉) [No. 6(1990. 7) p. 3]  
 労働関係の資料の宝庫に巡り会って(藤原道夫) [No. 7(1990.10) p. 2]  
 刊物の史跡:栄国寺(青山玄) [No. 8(1991. 1) p.2~3]

所蔵資料の紹介

「大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録」(村上篤太郎) [No. 3(1989.10) p.4]  
 「雑誌記事索引」(村上篤太郎) [No. 4(1990. 1) p.4]  
 「日本件名図書目録 1977~1984」(松林正己) [No. 5(1990. 4) p.4]  
 「日本統計索引」(松林正己) [No. 6(1990. 7) p.8]  
 労働関係の国内逐次刊行物の紹介(近藤幹夫) [No. 7(1990.10) p. 3]  
 The English Recusant Literature 1558-1640(近藤幹夫) [No. 9(1991. 4) p. 7]  
 外国雑誌の記事索引(近藤幹夫) [No.10(1991. 7) p. 5]  
 National Reporter Systemを使いこなすその1 (後藤真貴子) [No.11(1991.10) p. 8]  
 National Reporter Systemを使いこなすその2 (後藤真貴子) [No.12(1992.1) p.7~8]  
 CD-ROM紹介(三谷靖司) [No.15(1992.10) p.18]  
 MLA(土屋玲) [No.16(1993.1) p.6~9]  
 「佛像の起源」(紅露剛) [No.19(1993.10) p. 4]  
 「初めての富士山」(石井知好) [No.19(1993.10) p.5]  
 Social Science Index/Humanities Index(土屋玲) [No.19(1993.10) p. 6]  
 「山頭火全集」(山田豊明) [No.20(1994. 1) p.10]  
 「地球の音楽」(山口ま子) [No.20(1994. 1) p.11]

文庫訪問

蓬左文庫(平松富美、山本登母) [No.3(1989.10) p.6~7]  
 マリアンセン-図書館(村上篤太郎、浜口美津子) [No.4(1990. 1) p.6~7]  
 南山大学人類学研究所(平松富美、山本登母) [No.5(1990. 4) p.6~7]  
 御園座演劇図書館(山辺美津香、三谷靖司) [No.6(1990. 7) p.4~5]  
 愛知県勤労会館労働図書資料室・愛知県勤労会館国連寄託図書館(紅露剛、土屋玲) [No.7(1990.10) p.4~5]  
 切支丹遺蹟博物館(近藤幹夫、関谷治代子) [No.8(1991. 1) p.4~5]  
 南山大学研究所・資料室 7・ラ・カト(平松富美、尾上登母) [No.9(1991. 4) p.4~5]  
 トリ博物館<<資料室>>(笹山達成、三谷靖司) [No.10(1991. 7) p.2~3]  
 愛知芸術文化センター-愛知県図書館(石井知好、喜多島晶子) [No.11(1991.10) p.2~3]  
 名古屋商工会議所サビースセンター(鈴木高康、山口祐貴子) [No.12(1992. 1) p.2~3]  
 コノスセンター-図書室(眞野和夫、喜多島晶子) [No.13(1992. 4) p.2~3]  
 みどり子ども図書館(榎原素子、平松富美) [No.14(1992. 7) p. 5]  
 名古屋メッセ資料室(山田豊明、伊與田宣世) [No.15(1992.10) p.2~3]  
 神言神学院図書館(内藤英明、藤田三保) [No.16(1993. 1) p.3~4]  
 愛知県産業情報センター(関谷治代子、加藤あずさ) [No.17(1993. 4) p.8~9]  
 京都大学霊長類研究所図書館(喜多島晶子、加藤美紀) [No.18(1993. 7) p.2~3]  
 愛知県文化情報センター 7-トライヴラー(後藤真貴子、山口ま子) [No.19(1993.10) p.2~3]  
 熱田文庫(伊藤法子、関川理美) [No.20(1994. 1) p.8~9]

外部データベース紹介

外部データベースについて?(村上篤太郎) [No. 3(1989. 10) p. 5]  
 日経テレコン ニューステレコン (近藤健司) [No. 4(1990. 1) p. 5]  
 NACSIS-IR(松林正己) [No. 5(1990. 4) p. 5]  
 法律情報データベース(LEX/DB)(山辺美津香) [No. 6(1990. 7) p. 7]  
 国文学研究資料館データベース(山辺美津香) [No. 7(1990.10) p. 7]  
 NICHIGAI ASSIST(後藤真貴子) [No. 8(1991. 1) p. 7]  
 日経ニューステレコン(山辺美津香) [No. 9(1991. 4) p. 8]  
 財務分析のデータベース(後藤真貴子) [No.10(1991. 7) p. 6]  
 DIALOG(山辺美津香) [No.11(1991.10) p.9~10]  
 雑誌記事索引データベース(土屋玲) [No.14(1992. 7) p. 6]  
 JAPAN NEWS & RETRIVAL(参考係) [No.17(1993. 4) p. 7]  
 WINET(紅露剛) [No.18(1993. 7) p. 6]  
 国立民族学博物館データベース(藤田三保) [No.20(1994. 1) p.12]

〈図書館報20号記念〉

**利用案内、新入生特集**

- 大学図書館の利用の仕方(原田悟) [No.1(1988.4) p.2]  
 図書館利用案内 [No.1(1988.4) p.3~7]  
 図書館利用のための簡単なガイド [No.2(1989.4) p.3~5]  
 ワークスQ & A この訳本があったらなあ...  
 (山辺美津香)[No.4(1990.1) p.8~9]  
 図書館的達人-「ぶるんいばんごー」ってなあに?  
 (関谷治代子)[No. 7(1990.10) p. 8]  
 図書館を覗く(石井知好) [No.13(1992. 4) p. 2]  
 これであなたもちょっと通!!(石井知好)  
 [No.13(1992.4) p.4~5]  
 データ of 図書館 1991年度(後藤真貴子)  
 [No.14(1992.7) p.2~3]  
 ワークス事情あれやこれや(藤田三保)  
 [No.14(1992.10) p.16~17]  
 ?あなたは図書館通?チェックチェック(関寛係)  
 [No.17(1993.4) p.4~6]  
 とびだす!! グラフで見る図書館 平成4年度 special 3D版!!  
 (後藤真貴子) [No.18(1993.7) p.4~5]

**GEMMA便利帳**

- 前方一致は?-GEMMA77ボイト検索-(平松富美)  
 [No. 3(1989.10) p. 3]  
 分類番号(主題)からの77ロチ1-GEMMA77ボイト検索-  
 (平松富美)[No. 4(1990. 1) p. 3]  
 分類番号(主題)からの77ロチ2-GEMMA77ボイト検索-  
 (平松富美)[No. 5(1990. 4) p. 3]  
 便利な表示法の巻(三谷靖司) [No. 6(1990. 7) p. 6]  
 「前回の結果を使う」はもう古い巻(三谷靖司) ...  
 [No. 7(1990.10) p. 6]  
 [好みのタイトルのリストを作る]の巻(三谷靖司)  
 [No. 8(1991. 1) p. 6]  
 [本を探す3つの基本]の巻(三谷靖司)[No.9(1991.4) p.6]  
 悩んでいるあなたのための「ワード入力法」の巻  
 (三谷靖司)[No.10(1991. 7) p. 4]  
 悩んでいるあなたのための「ワード入力法」続きの巻  
 (三谷靖司)[No.11(1991.10) p. 4]  
 困った時の虎の巻シリーズ 1 初級編(三谷靖司)  
 [No.12(1992. 1) p. 6]  
 GEMMAとは?(伊藤法子) [No.13(1992. 4) p. 3]  
 ますます身近になるGEMMA-ああなたて便利  
 (石井知好)[No.15(1992.10) p.19]  
 「あっ!と思った時は後の祭り」の巻(三谷靖司)  
 [No.16(1993. 1) p. 5]

**図書紹介**

- 私の一冊(林田雄二、工藤祐蔵、関川理美、L.FABRIZIO)  
 [No. 9(1991. 1) p. 2]  
 この夏お薦めする一冊(整理係、栗山義久、米田美絵)...  
 [No.10(1991. 7) p. 8]  
 大学生になった君へ-教員が贈るこの一冊-  
 [No.13(1992.4) p.6~7]  
 私の薦めるこの一冊(西脇博、倉田信子、加藤あずさ、  
 野田義隆)[No.13(1992. 4) p.10]  
 この冬お薦めする一冊(整理係) [No.16(1993. 1) p.11]  
 新着図書紹介(整理係) [No.17(1993. 4) p.11]

**ライブラリアンズ・ハート**

- もっと皆さんの声を聞かせてください!  
 (木村久美子)[No. 9(1991. 4) p. 9]  
 図書館サービスの「裏方」(山田豊明)[No. 9(1991. 4) p. 9]  
 無題(榊原素子) [No.10(1991. 7) p. 9]  
 AMUSEMENT図書館(石井知好) [No.10(1991. 7) p. 9]  
 図書館員として思うこと(内藤英明)  
 [No.11(1991.10) p.11]  
 [図書館-コソをつかんでもっと面白く-](藤田三保)  
 [No.11(1991.10) p.11]  
 機械もんですから... (笹山達成)[No.12(1992. 1) p. 9]  
 無題(尾上登母) [No.12(1992. 1) p. 9]  
 図書館利用STEP(関谷治代子) [No.13(1992. 4) p. 9]  
 春はあけぼの... (三谷靖司) [No.13(1992. 4) p. 9]  
 ペンを磨け(紅露剛) [No.14(1992. 7) p. 7]  
 閲覧カウンターから見た困り事(安田はる子)  
 [No.15(1992.10) p.20]  
 [スパーマーケット]のおじさん?(鈴木高康)  
 [No.15(1992.10) p.20]  
 エッセイは読みづらい!(伊藤法子) [No.16(1993. 1) p.10]  
 図書館は巨大迷路?(関川理美) [No.16(1993. 1) p.10]  
 ホドリー・ヘアガーンを偲んで(平松富美)[No.17(1993.4) p.10]  
 GEMMAの「殺し逃げ」はやめよう(土屋玲)  
 [No.17(1993. 4) p.10]  
 図書の寿命?(栗山義久) [No.18(1993. 7) p. 7]  
 思い出の一冊(山口マキ子) [No.18(1993. 7) p. 7]  
 私だけの宝(中村恭子) [No.19(1993.10) p.18]  
 ...とやっぱり電車の中では文庫本のかははずせない  
 ...!というあなたへ(野村千里) [No.19(1993.10) p.18]  
 頭の中のビデオ(加藤美紀) [No.20(1994. 1) p.13]  
 感性を磨く?!(伊藤敦子) [No.20(1994. 1) p.13]

**展示会**

- [77アジビ'77展]に寄せて(家本博一)[No.11(1991.10) p.6]  
 アジビ'77展-平和を、人間の尊厳を、求めて-  
 [No.11(1991.10) p. 7]  
 <報告>アジビ'77展 [No.12(1992. 1) p.4~5]  
 聖書を中心としたキリスト教関係資料展  
 [No.14(1992.10) p. 4~15]  
 [キリスト教関係資料展]のこと(山本和義、眞野和夫)  
 [No.16(1993. 1) p. 2]  
 新入生歓迎特別企画展-南山大学の定期刊行物-  
 [No.17(1993. 4) p. 2~ 3]  
 東南アジアの子どもたち展-助け合い、理解しあうために-  
 [No.19(1993.10) p.10~13]  
 歌舞伎の歴史展(安田文吉) [No.19(1993.10) p.14~17]  
 <報告>歌舞伎の歴史展 [No.20(1994. 1) p.14~15]

**その他**

- USER'S VOICE(水野秀一、陳倍)[No.11(1991.10) p. 5]  
 カリック文庫(仮称)に向けて(山本和義)  
 [No.14(1992. 7) p. 4]  
 システム検討のお知らせ  
 [No.15(1992.10) p.22]  
 NEW GEMMA試作版77ネットの御協力ありがとうございました(三谷靖司)  
 [No.19(1993.10) p.7~9]  
 対談-成長する図書館を見つめて- [No.20(1994. 1) p.2~3]  
 南山大学図書館のあゆみ  
 [No.20(1994. 1) p.4~5]  
 Δ TNAMI Σ 総目次  
 [No.20(1994. 1) p.6~7]

〈文庫訪問〉

## 熱田文庫

**愛** 知県、特に名古屋在住の人々にとってはなじみの深い熱田神宮。お正月、七五三、結婚式等何か事ある度に訪れる人も多いが、その熱田神宮の本宮拝殿に向かう途中にある文化殿の2階に位置する熱田文庫の存在を知っている人は少ないのではないだろうか。

今回何と生まれて初めて熱田神宮を訪れるという私達三重県人二人は、さわやかな秋晴れのある日、名鉄神宮前で下車、「きよめ餅ってどんな餅？」と、ほけた事を言いながら土産物店の方向から東門へと入っていった。緑の木々のトンネルの中、玉砂利をザッザッと踏みながら少し歩くと右手に大きな建物が見えてきた。ふと2階を見上げると窓の向こうに本がたくさん置かれている。あっこれだ！というわけで、階段を2階へ上がると『熱田文庫 どなたでも利用できます』の看板が目に入った。

さて、文庫ではまさに生き字引といった感じの研究員の野村辰美さんにいろいろとお話を伺った。熱田文庫は江戸時代に神職を対象とした学校として始まったそうである。明治になって学校は閉鎖されたが、昭和41年、文化殿が建てられる時にその名前を復活させて現在の熱田文庫が新設された。その際、江戸・明治からの文庫の蔵書が昭和20年の3月、5月と2度の空襲によって焼失してしまっていたことが惜まれる。現文庫はその後購入・寄贈された図書が中心である。現在スタッフは研究員3名、司書1名で、『熱田神宮史料』、『熱田神宮文書』等神宮関係文書を編纂しており、熱田神宮通史についても、現在準備中とのことであった。

### 所蔵資料について

現在、蔵書約2万、「実は収容能力の2倍を置いているんです。」の言葉通り書架には床から天井までびっちり神社、神道関係を中心に郷土資料や国史、国文関係の書籍で隙間なく埋まっている。中でも神社、神道関係の資料は圧倒的で熱田神宮関係はもちろんのこと伊勢神宮関係資料だけでもかなりの数を所蔵している。また、珍しいところでは、いくつかの神社の発行する社報が揃っており、神道・神社関係の雑誌も製本保管されている。他に、これは何だ?と私達の目をひいたのが、江戸時代の版本で瀬戸市の神職家菊田家や神社庁の寄託本である。菊田家寄託本については目録が完成しているそうである。

### 利用について

誰でも利用可で以下の休館日以外は年中無休である。(すっご〜いスタッフはいつ休むのだろう?)

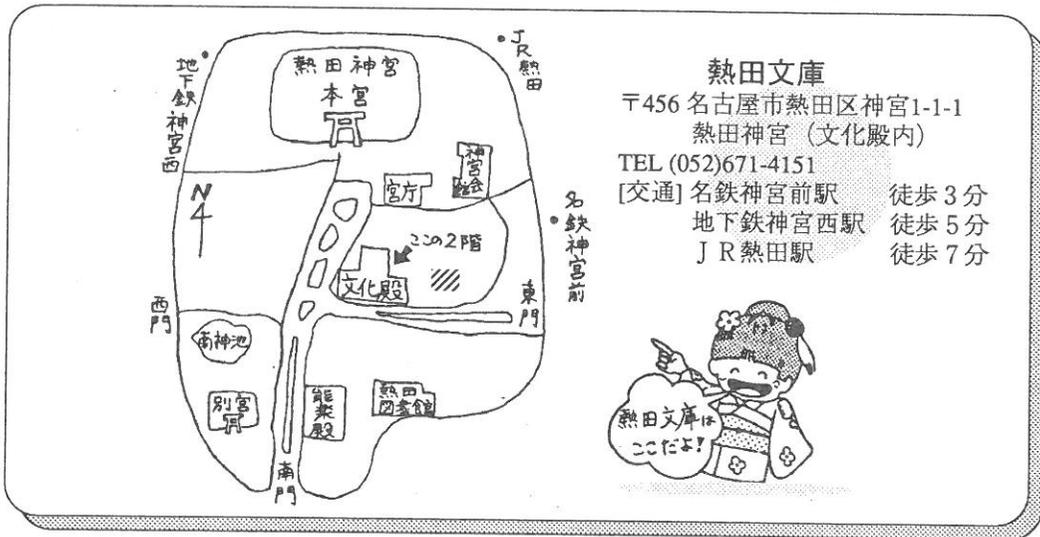
休館日：6月5日(熱田祭)、11月15日(七五三)、年末年始

開館時間：9:00~16:00

閲覧可。貸出し不可。一部を除いてコピー可。(1枚15円で代行コピーしてもらえる)

神宮付設の公開図書館は全国でも数少なく、利用者は研究者から夏休みの宿題で郷土資料を調べる中学生までと幅広いそうである。

《文庫訪問》



熱田文庫

〒456 名古屋市熱田区神宮1-1-1  
熱田神宮（文化殿内）

TEL (052)671-4151

[交通] 名鉄神宮前駅 徒歩3分  
地下鉄神宮西駅 徒歩5分  
J R 熱田駅 徒歩7分



文化殿の中には他にも宝物殿や講堂があり、貴重な資料が展示されており、時々文化講座も開催されている。簡単に紹介すると、

☆熱田神宮宝物殿☆

皇室、将軍、尾張藩、一般から寄進された古神宝、刀剣、和鏡、舞楽面、古文書、什器等約4000点を収蔵している。

南北朝時代の『日本書紀 熱田本』（重要文化財）はこちらの方で所蔵している。

拝観料：大人300円 小人150円

拝観時間：9:00～16:30（入館は16:10まで）

休館日：毎月最終水曜日とその翌日、  
年末12月25日～31日

☆講堂☆

文化講座が月1回程、土曜日の午後2時から4時まで開催されている。（無料）

[内容]

1994年1月29日 日本の心・母ごころ

2月19日 神話にみる妃神たち

3月26日 神々の祭りと風土

最後に熱田神宮関連資料南山所蔵分をあげておこう。

熱田神宮史料 -- 熱田神宮宮庁 175/76/v. 一部所蔵

熱田神宮文書 -- 熱田神宮宮庁 175/77/v. 一部所蔵

熱田神宮文化叢書 -- 熱田神宮宮庁 175/75/v. 一部所蔵

熱田神宮とその周辺 / 田中善一著 -- 名古屋郷土文化会, 1968 215/298

緑陰隻語 / 篠田康雄著 -- 熱田神宮宮庁, 1985 170K/156

角田忠行小伝 / 阪本是丸著 -- 熱田神宮宮庁, 1989 175K/312

ちょっと興味のある人、そしてない人も熱田文庫へ行ってみよう。  
これであなたも**神宮通**！

(システム係:伊藤法子, 逐次刊行物係:関川理美)



〈資料紹介〉

夜になると、名古屋の空でも多少は"澄んできたかな"と感じる季節となりました。

つべたい夜空にはお月さま。そして、最近図書館の書庫にばかり、青い地球が見られるのを御存知でしょうか。今回、紹介するのはその地球。実はこれ、CDブック [地球の音楽:フィールドワーカーによる音の民族誌] 全80巻が棚に並ぶと

現れる背表紙絵なのです。

CDブック全集

地球の音楽 [全80巻]

フィールドワーカーによる音の民族誌

[請求番号 CM/389/1]

音楽民族学を専門とする国立民族学博物館・藤井知昭教授の監修のもと、世界各地に派遣されたフィールドワーカー=音楽蒐集人が集めてきた民族音楽の数々。ここには、"世界の音楽"と

いってもどちらかと言うと、日頃馴染みの少ない国・地域の音楽が多数収録されています。キバストゴ・ドミカ・カメルン...咄嗟に正確な位置が分からず、地球儀の上で迷子になりそうですが、好奇心の虫が頭をゆめもたげてくるのは、否めません。その上、やはりCD"ブック"ですから、各巻に解説書(Field Note)が付いていて、その音楽が生まれた風土・社会的背景についての説明がされていたりします。

例えば、『インドネシア・沁みいる音』の巻。1980年代のエキゾチックな音楽が、あちらこちらで耳にしたガムラン。ジャワやバリなどの代表的な音楽として知られるようになった青銅製打楽器の合奏が収録されています。沁みいる音という感じが伝わり、澄んだ響きが風に乗って揺らぐように奏でられています。しがじ何より心地よいのはフィールド録音であるため、天にまで昇りそうなガムランの響きと並行して、集まっている人々の地を這うような静かなさざめきや気配が伝わって来ることです。

スタジオ録音によるCDや、コンサートホールで演奏される精製加工されたような音楽にはしない土の薫りがするような気分になるあたりが、やはり「地球の音楽」。全80巻の中には、誰にでもおそらく1巻くらい魅了される地域の音があるのではないのでしょうか。

お好きな地域から、一度お試しあれ。

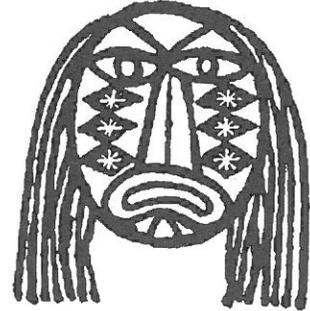
(図書受入係：山口キ子)

《外部データベース紹介》

## 国立民族学博物館データベース

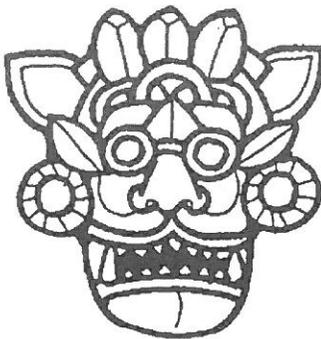
**国立民族学博物館** は、世界中のあらゆる地域の民族の衣食住等の活用具類・文献・写真・フィルム・レコード・テープなどを収集し、研究調査・展示公開を一体的にとりあつかう「研究博物館」です。

そこで所蔵する図書のうち約27万件をオンラインで検索できるようになりました。また、図書館を通しての図書の借り受けも可能になりましたので、人類学科の皆さんには特にうれしいニュースですね。



データベース は次の三種類に分かれています。

- |   |
|---|
| <p>1. 日本語図書データベース・・・121, 908件<br/>書名、著者名、出版社等から検索できます。</p> <p>2. 外国語図書データベース・・・154, 122件<br/>原則としてラテン文字を用いた言語の図書を検索できます。<br/>中国語、朝鮮語、ロシア語などの図書は検索できません。</p> <p>3. 服装雑誌記事データベース・・・38, 362件<br/>1967年以降の身装関連雑誌記事の情報が、キーワード等から検索できます。採録対象誌数は1, 600誌にのびります。</p> |
|---|



利用できる時間は、9：30～4：30で、月曜日の午前中と土曜日は利用できません。料金は利用者にご負担いただきますが、当分の間無料ですのでお気軽にご利用下さい。詳しいことはレファレンス・カウンターまでどうぞ。

(参考係：藤田三保)

## 《ライブラリアンズ・ハート》

## 頭の中のビデオ

[3匹の子ぶた][白雪姫][シンデレラ][ピノキオ][101匹わんちゃん]、幼い頃何度もページを開いては、その御伽の国へ引き込まれた。幼いながらも、その1冊1冊の絵本の中にいくつかの好きな場面があった。その絵をみながら、また文字を追いながら、登場人物の動き、声、表情を想像して、自分なりに話をつくり上げていった。その動かない絵と文字をヒントにして作られた話が、小さな頭の中で動く絵本になっていった。今でも本を読むときには、この頭の中のビデオが動き出す。

最近では映画だけでなく、今まで絵本として楽しんできたものまでもが、本当のビデオとして見ることができる。繊細で柔らかなあの動き、表情は確かにすばらしいし、現実を忘れて夢の中にいるような錯覚をおこす。目から画像、耳から音が自然にはいつてくるビデオやテレビで現実の世界から離れる時を過ごすのもいいだろう。でもいつもこのような受け身の時間を過ごしては、想像力が乏しい人間になってしまうようで淋しい気がする。

どんどん機械化されている今、少しずつ活字から離れていっている私たち。忙しくて時間の流れの速い現代の中で、積極的に時間を見つけて本を読んだり、自分の手で字を書いたりしていかないと、頭の中の「想像」や「創造」の居場所が追いやられてしまいそうだ。

レンタルビデオ屋さんでビデオを借りるのもいいが、時には自分の手でのんびりページをめくっていくのも素敵な時間の過ごし方ではないだろうか。こんなことを書いていたら、幼いころよく手にしたあのウォルト・ディズニーの大きな絵本がとても懐かしくなってきた。今ならきっと軽々とページがめくれてしまうのだろう。なぜかちょっぴり寂しい気がする。

(整理係：加藤美紀)

## 感性を磨く?!

穏やかな秋の午後、私は東山魁夷展に足を運んだ。「青の世界展」と銘打っているだけのことはある。そこかしこに様々な表情の青がひしめいていた。初期の明るい青が深みを増し、円熟味すら漂わせ始め、次第に白と黒の世界に入っていく。そうした色の変化が作者の心の歩み、延いては人生哲学の推移を思わせるようで興味深い。その中であって一際私の心を引き付けてやまなかったのは、「山霊」(Mountain Spirit)と題された、白と黒を基調とする、水墨画を思わせる一枚の絵だった。まさに山の精霊がそこに投影されており、その呼びかける声が聞こえてきそうな...厳肅な一枚であった。

その時私の心を買ったのは、感性も才能なのだという思いである。作品を鑑賞するだけの感性はあっても、私には精霊の呼びかけを全身で感じ、それを作品として昇華するだけの感性はないのだと思い知らされたのである。それは、構図とかタッチとかを超えた原初的な才能であり、これなくしては芸術に一步たりとも近づけないのだ。

身辺雑記風のエッセイを読んでいる、これ位のものなら自分にも書けると書き出しても、ペンが一向に進まないとき、表現力不足の所為にしていたが、何のことはない。手段ではなく、語るべきもの自体を持たなかったのだ。「大江光の音楽」を耳にしたときも同じ思いに囚われたことがある。音楽という手段を得て初めて、彼の内なる葛藤や他者への思いが露になったのを知ったとき、私に欠けているのは表現する手段ではなく、表現するもの自体だと悟ったのである。感性の昇華、そして衝動の発露を芸術作品と呼ぶなら、私は何と芸術から遠い人間なのだろう。

鑑賞力という、言わば二次的な感性は磨けもするだろうが、はてさて原初的な感性は、一体磨けば光るものなのだろうか.....

(図書受入係：伊藤敦子)

《展示会報告》

# 歌舞伎の歴史展



11月1日(月)～13日(土)まで大学祭の期間を含み2週間開催された『歌舞伎の歴史展』は、好評のうちに幕を閉じました。期間中約1,200名の入場者数を記録し、学生のみでなく広く一般の方々にも来てもらえたことをうれしく思います。

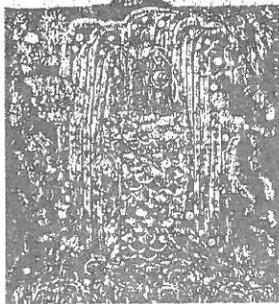
会場では、歌舞伎の歴史の流れに沿って貴重な資料や役者絵、衣装などが展示され、その学術的価値が高く評価されるものとなりました。これも一重に、ご多忙の中で準備や当日の説明会にあれこれと時間をさいて下さった安田文吉先生のおかげ、と心より感謝いたしております。また貴重な蔵品を快くお貸し下さった、皇学館大学神道博物館、名古屋市博物館、名古屋市蓬左文庫、名古屋市鶴舞図書館、御園座、鮎処「廣」に改めて御礼申し上げます。

## 東海の歌舞伎史を発掘

### 南山大 衣装など50点展示

豪華げんらんの衣装、珍しい眞行起縁やしき絵を中心に構成した「歌舞伎の歴史展」が南山大学図書館で十三日まで開かれてい

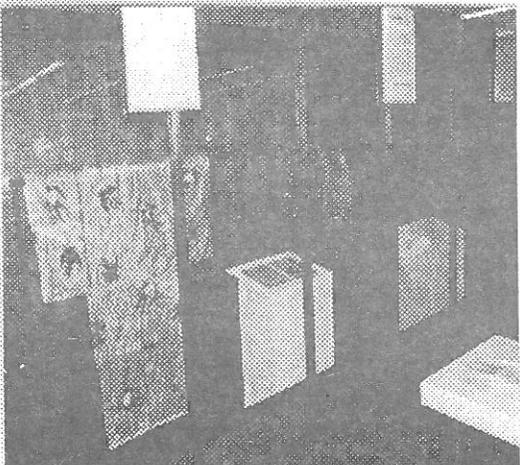
る。展示品約五十点の主なものは伊勢市にあった芝居小屋に由来し、東海地方に伝わる歌舞伎の歴史を振り返っている。



傾城役が着用した「紫地錦蓮雀打掛」

「こんなものが家にたくさんあるのですが...」と言って、お蔵に眠っていた江戸時代の歌舞伎台帳をもってきてくれた卒業生の方もありました。それらを調査したところ、大変貴重な資料とのことで安田先生は大喜び。「これを機会に東海の歌舞伎資料を発掘したい」と意欲を燃やしていらっしゃいます。

このように、第3回目を迎えた図書館の秋の展示会も、いろいろな方々のご参加ご協力をいただけるようになり活力を増してきました。来年はどんな企画にするか、今からはりきって考えることに致しましょう。皆さんも何か良い案があれば是非おきかせください。



色づかいも華やかでデザインも実に大胆で斬新(さんしん)だ」と話している。

この衣装は伊勢市古市で昭和五十年ごろまで営業していた貸衣装屋「千束屋(ちづかや)」が持っていたもの。同市には江戸から明治にかけて、常設の芝居小屋が二軒あり、上方や江戸から役者が盛んに往來し人気を集めた。

また、資料では伊勢の芝居小屋のにぎわいをとらえる「伊勢歌舞伎浮城年代記」を展示している。これは元禄三年(二六九〇)から寛政十年(二七九八)までの二つの小座の

興行録でもあり、当時の事件、騒動までも記されている。そして「寛永御記(かんえいごりき)」は、尾張藩主徳川義直が三代将軍家光に茶を献上する際、余興で若衆二、三に踊ったことが記されている。

また、浮世絵では人気役者の七代目市川団十郎が死んだ(二八五九年)直後に、辭世の句をのせて発売された「死絵」など。

「千束屋」の衣装は現在、三重県の伊勢神道博物館に所蔵されているが、昭和五十九年、安田教授が専門調査員として目録作りに協力した関係で貴重な資料が貸し出された。午前九時から午後四時半まで(土曜日は正午まで)。無料。問い合わせは〇五二一八三(二二二二) (同大図書館)。

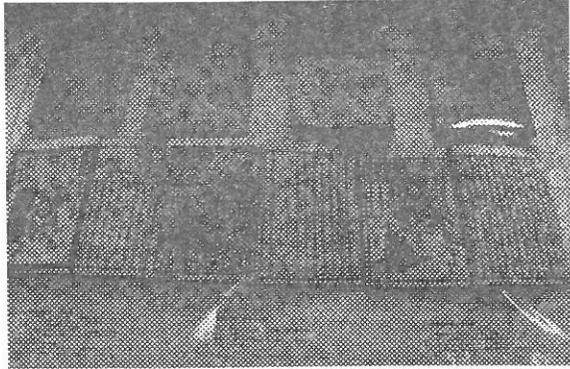
〈展示会報告〉



安田先生の説明会

楽しいお話におもわず引き込まれる

花江戸歌舞伎年代記  
歌舞伎の歴史を知る貴重な資料



---

---

閲覧カウンターからのお知らせ

---

---

春期長期貸出 今年も行います!!!

新春恒例といえば、後期試験  
と  
**春期長期貸出!!!**  
今年も春から勉学に燃える  
あなたを応援します。

いつ?

1月24日(月)から

2月8日(火)に借りた図書は返却日が4月8日(金)以降です。

だれが?

学部学生の1~3年次生と研修生、聴講生、留学生も大丈夫です。

4年次生はないのかと思っている人、4年次生は卒論貸出があります。

どれだけ? 何を?

いつもの2週間、5冊の他、10冊借りることができます。

でも残念ながら指定図書は1週間のままです。

詳しいことは館内いたるところの掲示を読んでください。(5)

ライブラリーカレンダー  
1994.1 ~ 1994.3

1 月				2 月				3 月					
9:00		6:00 8:00		9:00		4:30 8:00		9:00		6:30		書	
4:30 6:30		長		書		0:00 6:30		長		書		書	
1(土)	元日	冬期休館		1(火)				★		1(火)			
2(日)	1月6日まで			2(水)				★		2(水)			
3(月)				3(木)				★	★	3(木)			★
4(火)				4(金)				★		4(金)			
5(水)				5(土)				★	★	5(土)			★
6(木)				6(日)						6(日)			
7(金)				7(月)				★	★	7(月)			★
8(土)			★	8(火)				★		8(火)			
9(日)				9(水)	木館	平成6年度				9(水)			
10(月)			★	10(木)		入学試験の				10(木)			★
11(火)				11(金)		ため				11(金)			
12(水)				12(土)		2月13日まで				12(土)			★
13(木)			★	13(日)						13(日)			
14(金)				14(月)				★		14(月)			★
15(土)	成人の日			15(火)						15(火)			
16(日)				16(水)						16(水)			
17(月)			★	17(木)				★		17(木)			★
18(火)				18(金)						18(金)			
19(水)				19(土)				★		19(土)			★
20(木)			★	20(日)						20(日)			
21(金)				21(月)				★		21(月)	卒業式		
22(土)			★	22(火)						22(火)	振替休日		
23(日)				23(水)						23(水)			
24(月)			★	24(木)				★		24(木)			★
25(火)			★	25(金)						25(金)			
26(水)			★	26(土)				★		26(土)			★
27(木)			★	27(日)						27(日)			
28(金)			★	28(月)				★		28(月)			★
29(土)			★							29(火)			
30(日)										30(水)			
31(月)			★							31(木)			★

■：開館時間

長：春期休暇中長期貸出取扱期間

書：3・4年次生書庫入庫日（月・木曜pm 1:00~4:30, 土曜am 9:00~11:30）  
GEMMA講習会、文献探索講習会は、4月より再開します。

《編集後記》

飲酒も喫煙もない20号。  
心意気だけは真の元服を目指して  
今年も心の琴線をかきならすよう  
な企画で迫ります。乞うご期待！

(A.I, M.F, M.G)

(タイトルサイン：平松富美)

南山大学図書館報 デュナミス No.20  
1994.1.1.発行

南山大学図書館 広報委員会  
編集委員：伊藤(敦)、藤田、後藤  
〒466 名古屋市昭和区山里町18  
Tel 052(832)3707  
Fax (G3) 052(833)6986